



んだじゅ通信

Vol.7

Contents

1. 新庄病院健康まつりの御案内
2. 皮膚科の紹介
3. リニアック更新のお知らせ
4. 脳神経外科の紹介
5. 「NST」の紹介
6. 新任医師の紹介
7. がん相談支援センターから

山形県立新庄病院地域医療部

TEL: 0233-22-5525 (代表)

FAX: 0233-28-7277 (直通)

平成27年8月発行

んだじゅ一言

「夏は新庄まつり!

秋は新庄病院健康まつり!」

「んだじゅね～」

1. 新庄病院健康まつりの御案内

山形県立新庄病院 副院長 板垣孝知

県立新庄病院で、初めての「新庄病院健康まつり」を平成27年10月4日(日)午前10時から午後1時にかけて、県立新庄病院内および駐車場の一部で行います。

テーマとして、病院憲章である「仁、愛、和」を、サブテーマとして「病院を知ろう、病気を知ろう」を掲げて行います。

まつりの目的は、地域の方々へ感謝するとともに、病院内の施設、技術、業務を公開することを通じて病院を知っていただく機会とすること、展示や体験を提供し、小学生、中学生、高校生等に医療職を紹介する機会を設けること、地域内外の医療施設、医療組織との協調・連携を説明し、安心・理解を図ること、健康増進の一助となるようなこと等です。

具体的な催し物は、

1. ①小児科医、②整形外科医、③がん診療に関するもの、④食事での塩分制限についての講演会
2. 病院外医療組織との連携について、病院各部署の説明や職業につくまでの道、禁煙のお勧め、いろいろな色のリボン運動等の展示
3. 看護師、医師のユニフォーム写真撮影、ロコモティブシンドローム(運動器の障害によって移動機能が低下した状態)の予防法、えんげ体操、車



いすや松葉つえ体験、リハビリ訓練器具の展示や体験、心臓マッサージ・AEDの使い方等救急救命処置、地域唯一のお産の施設として、妊婦体験、赤ちゃん人形の抱っこやおむつ交換等の各種体験

4. 地域がん診療連携拠点病院に求められている「がん相談支援センターの業務である医療関係者と患者会等が共同で運営するサポート活動や患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援」の一環として、がん患者及びその御家族、その他参加者がほっと一息つける場を提供することを目的とした患者サロンの開設
5. 最上広域市町村圏事務組合消防本部の御協力をいただき、救急車乗車体験会、119番通報時の現場と指令課のシミュレーションと体験の実施
6. 山形県看護協会最北支部の御協力をいただき、血圧測定、血管年齢測定、骨密度測定等を行う「まちの保健室」を開催

等です。

イベントの詳細につきましては、まとまり次第、当院ホームページ (<http://www.ysh.pref.yamagata.jp/>) に掲載する予定です。

多くの方々の御来場をお待ちしております。





2. 皮膚科の紹介

皮膚科 第一診療部副部長 島貫美和

平成 27 年 5 月より、皮膚科が常勤になりました。皮膚科では身近な湿疹、皮膚炎、蕁麻疹、白癬（水虫）、疣贅（イボ）、胼胝（タコ）、鶏眼（魚の目）、痤瘡（ニキビ）、脱毛から、角化症、水疱症、皮膚腫瘍（良性・悪性）など皮膚に生じる様々な疾患の診療を行っています。

皮膚科外来は平日の午前中、毎日診療しています。山形大学皮膚科から応援医師が来る日もあります。午後は検査や外来手術を行っています。基本的に予約制をとっています。予約は皮膚科外来受付（当院 2 階）や電話（代表：0233-22-5525）でもお取りすることができます。平日の午後 2 時から午後 4 時の間にお申し込みください。医療機関からのご紹介は、地域医療部にて FAX による診療予約を受け付けています。申込書などの詳細は当院ホームページ（<http://www.ysh.pref.yamagata.jp>）をご参照ください。予約状況によってはご希望の日程に添えないこともあります。あらかじめ、ご了承ください。

現在対応可能な検査や診療設備について、ご紹介いたします。

<顕微鏡検査>直接鏡検で白癬菌や疥癬の検出を行います。

<パッチテスト>アレルギー性接触皮膚炎などの原因検索に行います。当院では金属アレルギー検査試材 16 種（鳥居薬品）を用意しています。化粧品などは使用されているものをご持参いただきます。

<皮膚生検>皮膚病変部の組織を病理組織学的に評価するため、病変の一部もしくは全体を採取します。病理組織診断は病理医に依頼しています。

<ダーモスコピー>皮膚病変を偏光レンズで拡大し、表皮全層から真皮上層部に及ぶ色素の分布を観察します。特に悪性黒色腫（メラノーマ）や基底細胞癌、色素性母斑、脂漏性角化症などの色素性病変の診断に有用です。

<凍結療法>液体窒素を用いて、皮膚病変を低温、凍結処置します。疣贅などに適応があります。

<光線療法>

- ・スーパーライザー：光の中でも生体深達性の高い波長帯の近赤外線を照射します。帯状疱疹や難治性皮膚潰瘍などに適応があります。

- ・PUVA 療法：ソラレンを塗ったのち、長波紫外線（UVA）を照射します。乾癬、掌蹠膿疱症、尋常性白斑、菌状息肉症、類乾癬、円形脱毛症、アトピー性皮膚炎、色素性蕁麻疹、多型日光疹、日光蕁麻疹、好酸球性膿疱性毛包炎などに適応があります。

<炭酸ガスレーザー>水に吸収される波長を用い、皮膚・軟組織の止血・凝固・切開が可能です。良性の皮膚腫瘍に用いることもあります。

<外来手術>外来で対応可能な小手術を行っています。

<その他>アナフィラキシーへのエピペン®や男性型脱毛へのプロペシア®の処方も行っています。

難治例、重症例、特殊検査を要する場合などは他科や山形大学皮膚科とも連携して診断、治療を行っています。また、皮膚科での入院が必要な症例は山形大学皮膚科へ紹介しています。

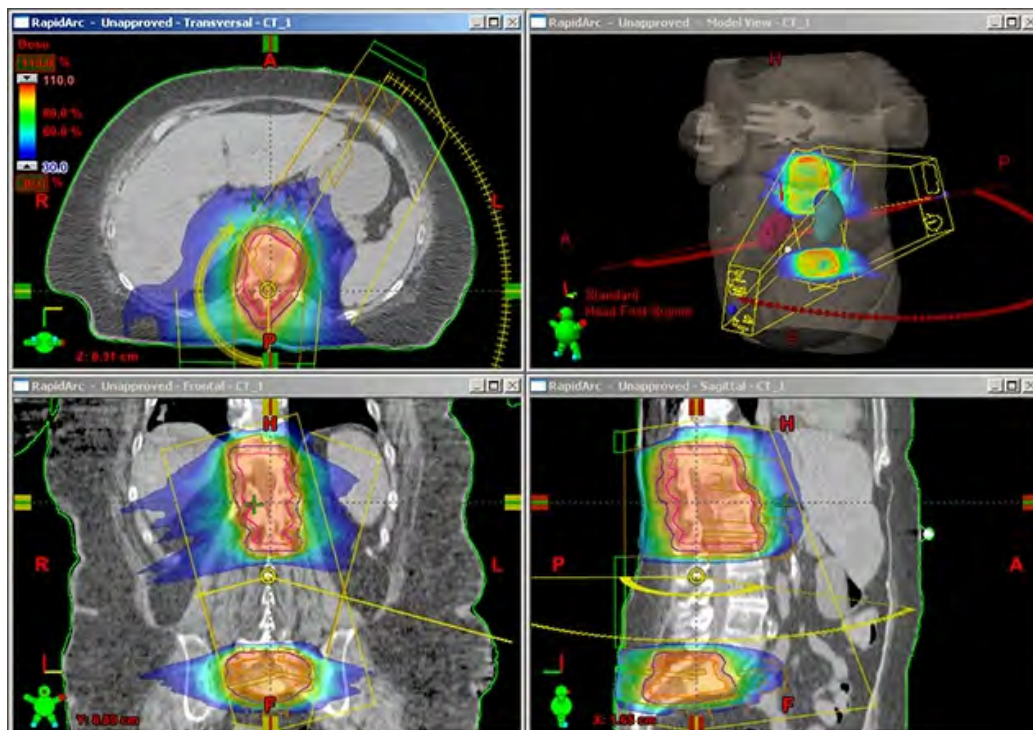
気になる皮膚病変がありましたら、お気軽にご相談ください。

3. リニアック更新のお知らせ

放射線部

よりやさしく！ より正確に！

新庄病院の放射線治療装置(リニアック)が更新されました。使用室の改修も行ったため、約8か月間放射線治療を休止しておりましたが、平成27年8月より治療を再開しております。長期間にわたり患者様や近隣の医療機関等の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。



今回更新された放射線治療装置(リニアック)についてご紹介させていただきます。更新前の新庄病院の装置と大きく異なる点が3つあります。1つ目はX線のエネルギーが変わったことです。旧装置のX線のエネルギーは6MVのみでしたが、新装置は6MVと10MVの2種類を選択できるようになりました。6MVのX線は体厚の薄い部位や比較的体表に近い部位の場合によく用いられ、10MVのX線は透過能力が高いため体厚の厚い部位によく用い



られます。2種類のX線のエネルギーが使用できるようになり、全身のどの部位でも最適な放射線治療が行えるようになりました。また、電子線治療も旧装置と変わらず行うことができますので、皮膚等の体表の病変に対処することができる装置になっております。

2つ目はOBI（オンボードイメージャー）と呼ばれる照射位置確認のための装置が搭載されたことです。近年の急速な放射線治療技術の進歩による治療成績の向上に伴い、高い照射位置精度が求められるようになってきました。OBI（オンボードイメージャー）の導入で、治療直前に照射位置の確認することが可能となり、日々のわずかな照射位置のずれを補正することにより、より正しい位置での治療を行うことができるようになりました。また、高い位置精度が担保されるようになったために、照射野をより小さくすることができるようになりました。照射野をより小さくすることによって病巣周辺の正常組織の線量を減らすことができ副作用の低減も期待できるようになりました。

3つ目は、呼吸管理システムの導入です。呼吸により移動する病変の場合、照射時の位置的な再現性が重要になってきます。呼吸管理システムにより照射時の呼吸の再現性を向上させることが可能になり、より位置精度の高い放射線治療が可能になりました。

X線のエネルギーが2種類になったこと、OBI（オンボードイメージャー）が搭載されたこと、呼吸管理システムが導入されたことにより、より最適で患者様にやさしい放射線治療を行うことが可能になりました。

患者様により良い放射線治療を提供できるよう、スタッフ一同がんばっていきたく思います。

なお、当院に放射線治療をご依頼される場合は、当院地域医療部にお電話でのご連絡をお願いします。受診方法のご説明や来院日のご予約をさせていただきます。





4. 脳神経外科の紹介

脳神経外科 医療安全部副部長 加藤直樹

脳神経外科の診療分野は、脳疾患の中でも手術を必要とするような病気の治療が中心となります。しかしながら、地域性や医師の配置の関係などから、当院においては、手術を必要とする患者さんのみならず、脳に関連した様々な病気にも対応し治療にあたっています。

現在、当院の脳神経外科は、蘇（山口）副院長と加藤の2人での診療体制となっています。常勤している医師は2人と少ないですが、当院は新庄・最上地区の基幹病院として、山形大学を中心に県内の主だった病院の脳神経外科と連携して診療にあたり、必要な場合には速やかに紹介することで、患者さんにとって適切な治療がうけられるような体制となっています。

脳神経外科で治療を行う主な病気としては、脳卒中、頭部外傷、脳腫瘍などがあります。

脳卒中とは、脳梗塞（脳の血管が詰まる病気）、脳出血（脳の中を通る非常に細い血管が切れて出血する病気）、くも膜下出血（脳の表面にある血管からの出血）をあわせた病気の総称になります。脳卒中になると、それまで何ともなかった人が急に具合が悪くなり、意識障害（反応がなくなる）や手足の麻痺、言語障害を引き起こします。脳卒中になりますとその後の後遺症も出やすいため、できるだけ早急な治療を必要とします。脳卒中の場合には、当院では、脳神経外科だけでなく、内科の先生方や急患担当の先生方の力を借りて協力して治療にあっています。

頭部外傷では、軽症から重症なものまで様々ありますが、重症の場合には残念な結果になってしまうことも少なくありません。交通事故や酔っての転倒などには十分ご注意ください。

脳腫瘍の場合には、悪性の際には手術のみならず、抗がん剤や放射線治療など様々な治療法の組み合わせが必要となってきます。そのため、現在は脳腫瘍の患者さんの場合には山形大学病院へ紹介することが多くなっています。大学病院での治療がひと段落つき、通院治療が必要な際には、大学病院と連携しながら当院に通院される方もいますし、リハビリテーションなどが必要な場合には、入院してのリハビリ継続あるいは通院リハビリを当院で行うこともあります。

先ほども述べましたように、脳卒中を含め、脳の病気の際には手足の麻痺や言語障害といった後遺症が出ることが多々あります。そのため、病気の治療とあわせてリハビリテーションを行うことがほとんどとなります。現在の医療技術ではまだ、脳は再生の難しい臓器であるため、脳の損傷で失われた機能が100%元に戻ることはありません。脳の病気でのリハビリテーションでは、動かなくなった手足を元に戻すことではなく、不自由がでた状態で日常生活に戻るため、残った機能をうまく活用し、最終的には再び自宅での生活ができるようになるための訓練を行うことが主な目的となっています。そのためリハビリテーションの先生方と協力して治療・訓練を行いながら、当院の地域連携室の職員と協力し、自宅へ帰る準備やその後の介護の準備・手続きを手助けしています。

今後もこの地域に住む皆様がよりよい暮らしができるようにお手伝いしていきたいと思っております。

5. 「NST」の紹介

栄養管理室 栄養管理係長（NST専従） 高橋瑞保

みなさんは「NST」という言葉をご存じでしょうか？Nutrition（栄養） Support Teamの略で、「栄養サポートチーム」と訳され多職種で栄養治療を実践するチームのことです。

当院では、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、言語聴覚士、臨床検査技師が週1回、介入依頼を受けた患者に対してカンファレンスと回診を行い、適切な栄養治療について検討し主治医に提案しています。（写真：カンファレンスと回診風景）



例えば、こんな患者さんがいます・・・手術は成功したけど、なかなか食事が食べられない。そうすると傷の治りが遅かったり、リハビリが進まなかったり、入院が長引いてしまうことが予想されます。そうならないように、NSTが専門職の特性を活かして食べられない原因を究明して早期退院を目指します。食べられない原因は薬剤性による食欲不振かもしれない、嚥下障害があって食べにくいのかかもしれない、検査値の異常を素早く見つけることで現状改善できるかもしれない、等多方面からの切り口で困っている患者さんだけでなく医療者側もサポートしていきます。

詳しいNST活動については、当院ホームページ (<http://www.ysh.pref.yamagata.jp/>)の「NST通信」や「NST勉強会」で随時情報発信しておりますので、ぜひご覧ください。（下図：NST通信とNST勉強会ポスター）



NST通信
平成27年6月号

栄養補助食品
タイプ別に使いこなそう！

6月のNST勉強会でも紹介しましたが、NSTでは患者さんの症状に合わせて効果的な栄養補助食品をお薦めしています。

- ポテプラス**
 - 栄養補助食品
 - 補糖などがある時に「ポテプラス」を付加しますが、食物繊維とオリゴ糖で腸内環境を整える効果も期待できます。
- +ビタミンC**
 - ビタミンCは、免疫力を高め、傷の治りを早めます。
- +鉄・亜鉛**
 - 鉄と亜鉛は、貧血を予防し、体の健康を保ちます。
- +食物繊維**
 - 腸の動きを良くし、便秘を予防します。
- +オリゴ糖**
 - 腸内環境を整え、免疫力を高めます。

☆☆☆☆☆ NST勉強会多数参加いただきました！ ☆☆☆☆☆
6月はNST専従管理栄養士（高橋瑞保）による定例勉強会でしたが、院外からの参加者も多く盛況に終わりました。参加者の「栄養の日」がきっかけ、勉強会終了後はNST依頼が増えました！ありがとうございます。

「栄養の日」は特別に、一週間限定で実施します。

NSTへのお問い合わせは栄養管理室
東北は最速のNSTスタッフへ
(※医師：栄養管理室 内線1276)



NST勉強会のご案内

日時 7月29日(水) 17:30~18:30
場所 C棟3階会議室

テーマ：胃瘻を知ろう！

講師 ハリヤード・ヘルスケア・インク
〒100-0001 東京都千代田区千代田 1-1-1 祐川 直氏

**胃瘻造設後の実践的ケアと
トラブルシューティング**

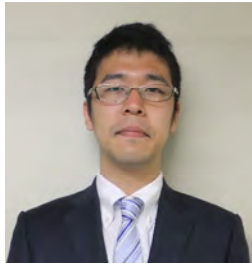
講師は元看護師の方です。看護師を対象とした内容ですが、どなたでも参加できます。

事務局：栄養管理室
担当：NST専従管理栄養士 高橋 瑞保
電話：0234-52-5525（代）

山形県立新庄病院
NST 栄養管理係



6. 新任医師の紹介



【氏 名】黒川真行

【あいさつ】

初めまして、研修医2年目の黒川と申します。新庄病院には学生の時の実習以来ですが、今回は研修医として、少しでも患者さんのためになるよう努力していきたくと思います。宜しくお願いします。

7. がん相談支援センターから

県立新庄病院は **がん診療連携拠点病院**です。

当院がん相談支援センターでは、がん相談員（看護師）が、患者さまやご家族と一緒に、悩みや疑問・不安なことなどをお聴きして、その人らしい療養生活を送ることができるようお手伝いをしています。ご相談の内容により医師、薬剤師、栄養士、社会福祉士など専門医療スタッフと連携を取りながら対応しています。

先生の説明が難しくてよくわからない
がん（病気）についてくわしく知りたい



セカンドオピニオンや緩和ケアについて知りたい
介護保険や福祉制度、医療費について聞きたい

相談受付

来院による面談・電話による相談を受付けております。

受付時間

- ・ 8時30分～17時15分
月～金曜日（祝祭日除）

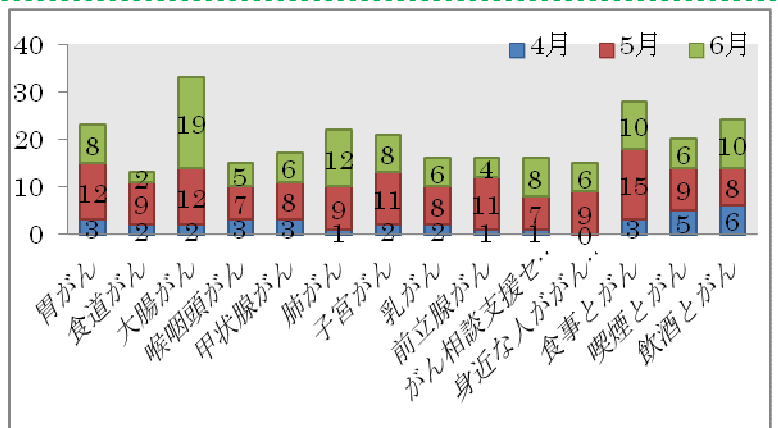
受付場所

- ・ 医療相談受付8番窓口

電話番号

- ・ 0233-22-5525（代表）

がんに関する各冊子の活用状況(H27.4～)



薬局前カウンターに冊子・図書等を設置しています。
冊子は持出し可能、図書は貸出ししております。